

床的検討

大分医大第2内科 仲間 薫
新しい腫瘍マーカーCYFRA 21-1の肺癌における有用性について検討した。全肺癌症例で53.7%の陽性率を示し、SCC, CEA, SLXよりも高い陽性率を示した。病期別ではI期, II期より高い陽性率を示した。他のマーカーとの組み合わせではCYFRA 21-1とSLXとの組み合わせが最も高い陽性率を示した。CYFRA 21-1はCEAとは弱い相関を示したが、SLX, SCCとは相関しなかった。以上よりCYFRA 21-1は肺癌の腫瘍マーカーとして有用と考えられた。

7. 肺癌におけるp53タンパクのFlow cytometryによる定量測定

長崎大第1外科 谷口善孝
田川 泰, 七島篤志, 藤瀬直樹
松尾 聡, 羽田野和彦
松本佳博, 内川徹也
西沢Juan英樹
川原克信, 綾部公認, 富田正雄
FCMを用いて肺癌85例についてp53タンパクの定量測定を行った。定量値としてFluorescence index (Fi)を算出した。Fiが0.50以上の症例は56例(65.9%)であり、この群はリンパ節転移, Stageと相関があり, 有意に予後不良であった。また, リンパ節転移陰性症例に限定しても有意に予後不良であった。p53タンパクがFiで0.50以上の症例は予後不良であり, 嚴重な治療と観察が必要と思われた。

8. 非小細胞肺癌に対する化学療法と放射線療法の交替療法時における末梢血CD34陽性細胞の検討

久留米大第1内科 田中泰之
大野高義, 末安偵子, 力丸 徹
市川洋一郎, 大泉耕太郎

化学療法と放射線療法の交替療法時のGCSFによる血小板減少の有無及び末梢血幹細胞の関連について検討した。1) CDDP, VDS, IFOによる交替療法時血小板数最低値はGCSFの使用の有無により有為な差はなかった。2) 末梢血幹細胞はGCSF使用時において有為に増加をしていた。3) その動態の検討によりGCSFの使用時において末梢血幹細胞が血小板数減少に関与する可能性は低いと考えられた。

9. 原発性肺腺癌におけるCathepsin Bの発現と、その臨床病理学的検討

長崎大第1外科 藤瀬直樹
田川 泰, 富田正雄
原発性肺腺癌を対象とし, 基底膜の構成成分を分解するCathepsin B(以下CB)の発現を免疫組織学的手法を用いて検討した結果, 術後再発を来した症例に陽性例が有意に多く認められ, その傾向はp-T1N0症例でも同様であった。さらに転移形式別の検討を加えたところ, 血行性転移を来した症例にCBの発現レベルが有意に高く認められた。肺腺癌におけるCBは予後因子の一つとなりえる可能性が示唆された。

10. 胸水中CYFRA21-1(シフラ)の臨床的意義について

九州大胸部疾患研究施設
川崎雅之, 八並 淳, 松木裕暁
落合早苗, 橋本修一, 中西洋一
原 信之
EIA-CYFRA21-1(シフラ)Kitを用い種々の胸水貯留疾患患者の血清ならびに胸水中のシフラを同時測定し, その臨床的意義を検討した。対象は, 原発性肺癌14例, 他の悪性胸水10例, 結核性胸膜炎7例, 他の良性疾患5例の計36症例である。胸水中

シフラ値のカットオフ値を100 ng/mlと設定して解析したところ, 悪性胸水におけるシフラのsensitivityは65%, specificityは93%であった。胸水の腫瘍マーカーとしての有用性が示唆された。

11. 非小細胞肺癌に対するWeekly CDDP+UFTの第一相試験

久留米大第1内科 力丸 徹
田中泰之, 矢野秀樹
市川洋一郎, 大泉耕太郎
非小細胞肺癌患者15名に対しCDDP(3回/4週)+UFT(300 mg/day)経口の第一相試験を行った。UFTを300mgに固定し, CDDPを1回量15, 20, 25, 30mg/m²と増量した。血液毒性や肝腎機能障害は軽微であった。嘔吐, 食欲不振を一過性に認め, 症例により対応に苦慮した。効果はPRを2例に認めた。30mg/m²の投与量でも外来にて治療可能だが, 嘔気, 食欲不振に対し, 今後の検討が必要と思われた。

12. 非小細胞肺癌化学療法有効例の予後因子の臨床的検討

国病九州がんセンター呼吸器部
麻生博史, 一瀬幸人
矢野篤次郎, 横山秀樹
高梨伸子, 田山光介, 上田剛資
高井英二
対象は当院に於いて初回治療でCDDPを含む化学療法を施行し, PRとなった非小細胞肺癌20例で, 男15例, 女5例, 平均年齢64歳, PSは0:3例, 1:13例, 2:4例であった。病期はII:1例, IIIA:4例, IIIB:2例, IV:13例で, 組織型はSq:5例, Ad:13例, La:2例であった。化療は平均4.5コース施行され, PR期間の平均は133日で, 最大縮小率は平均77%であった。